

医療法人愛全会御一行様が来院されました

8月23日、医療法人愛全会の理事長・赤塚知以名誉理事長をはじめ、様々な職種の方が永生会を見学にご利用、南多摩病院にもご来院くださいました。

愛全会は、札幌市で初めての介護老人保健施設や北海道で最初のケアハウスなどを順次開設する一方、早くからリハビリテーションに力を注ぎ、常に高齢者の医療・保健・福祉サービスの最前線を歩んでいる法人です。

慢性期の病院である永生病院では、飯田病院長や看護部長、リハビリ統括部長などから、看護部門・リハ部門・介護部門の役割分担や教育システム、外国人看護職・介護職についてご説明させて頂きました。



急性期である南多摩病院では、益子邦洋病院長より『地域包括ケアを支える永生会～病院救急車を運用する南多摩病院の役割～』というテーマでご説明させて頂きました。



国が掲げる医療政策の2大政策の1つである地域包括ケアシステムを、永生会にあてはめて考えてみると、永生病院は回復期リハビリや精神科・地域包括ケア病棟に始まり、医療療養や介護療養病棟を持っており、南多摩病院はDPC7:1病院として、また、東京都二次救急指定病院としての医療を提供しています。さらに、老健施設や訪問診療所、訪問看護ステーション、居宅事業など行っており、永生会でも住まいを中心に、回復期病院、急性期病院、在宅医療や生活支援・介護予防そして施設介護まで幅広く行っております。

つまり永生版の地域包括ケアを実現していくことを目指しているのですが、急性期から回復期、生活期までトータル的なケアの仕組みづくりについて大変ご興味を持っていただきました。

